消防トピックス

セーフティ・ファーストエイド研修を実施して

日南市消防団　女性部　部長　日髙　博惠

1　日南市について

日南市は、宮崎県の南部に位置し、地域の東側は日向灘に面し、その海岸線は「日南海岸国定公園」に属しています。一方、北西部の山地には標高1,000m級の小松山や男鈴山などを有し、本地域の8割弱が林野でそのほとんどが飫肥杉などの人工林で占められており、総面積は536.11km^2、人口は52,735人（H29.4.1現在　推計人口）となっています。

日南地方はその昔、平安朝時代藤原荘園として開拓された地方で日向八院の一つである飫肥院のあったところと伝えられています。建久元年、工藤祐経が日向地頭職に任ぜられてから、飫肥城をめぐり、伊東、島津の争いが続きましたが、豊臣秀吉の九州征伐後はついに伊東家の居城となり、五万一千石飫肥藩として広い領域を統治しました。

昭和25年1月1日、近隣の飫肥、吾田、油津、東郷の4町村が大同団結し市制を施行しました。その後2回にわたる隣接町村の合併によって、「日南市」の体制が完備され、平成21年3月30日、日南市、北郷町、南郷町の三市町による新設合併が行われました。風光明媚な日南海岸国定公園の港町「油津」、山紫水明の城下町「飫肥」、大自然に囲まれた、緑と清流と温泉の町「北郷」、豊かな大自然と触れ合い、カツオ一本釣りの港町「南郷」を観光拠点として「緑と黒潮が育む産業・文化・交流都市」をキャッチフレーズとして躍進が期待されています。

2　日南市消防団について

日南市消防団は、1本部、13分団、51部、1ラッパ隊で構成され、条例定数1,406名で、平成29年4月1日現在の団員数は1,271名（うち女性団員23名）です。

毎年4月から5月にかけて、辞令交付式、新入団員の規律訓練、幹部研修等を実施しています。夏場には、大雨や台風に備えた水防訓練や地震・津波等の総合防災訓練に参加するとともに、冬場には火災予防のための、夜警巡回活動を行っています。

女性部については、高齢者宅を訪問しての防火診断活動や地域公民館等への防火啓発活動を実施し、ラッパ隊については3月の宮崎県消防団ラッパ隊フェスティバルに参加して、魅力ある演奏を披露しています。

3　研修実施の経緯について

昨年秋、女性消防団員向けの研修会を探していたところ、「消防団員セーフティ・ファーストエイド研修」が試行されることを知りました。この研修は、消防団が実施した事例はまだ少なく、しかも女性消防団員のみが実施するのは全国的にも初めてということもあ

り、日南市消防団女性部として、是非盛り上げたいと考え、平成29年11月にこの研修に取り組むことになりました。

4　研修の概要

平成29年11月21日（火）に日南市消防本部２階研修室において、セーフティ・ファーストエイド研修が行われ、日南市消防団女性部の22名が受講しました。講師として、厚生労働省DMAT事務局の河嶌譲先生と小森健史先生に東京からお越しいただきました。さらに、宮崎大学医学部病態解析医学部講座救急・災害医学分野　落合秀信先生（附属病院救命救急センター長）、宮崎県立延岡病院救命救急科長　長嶺育弘先生にも指導講師として同席を賜り、日南市消防本部の救命士とともに女性団員への実務指導にご協力いただきました。

宮崎大学医学部附属病院救命救急センター長
落合秀信 教授

また、来賓として、総務省消防庁国民保護・防災部防災課地域防災室の森麻里子課長補佐、消防団員等公務災害補償等共済基金の吉住智文監事、高橋文昭事務局長にご臨席を賜りました。

今回のファーストエイド研修では、前半に「災害医療概論」の講義、後半に「災害現場における応急手当」の実習が行われました。

「災害医療概論」においては、消防団員の公務災害の現況について、消火活動中よりも操法大会等の演習訓練での負傷が多いという解説がありました。

災害現場における応急手当の実習は、受講者を６班に分けて行われました。各グループには落合先生や長嶺先生、本市消防本部の救急救命士４名に指導講師として入っていただき、現場の安全確認、血液曝露による感染の防止、傷病者の初期評価、エマージェンシーバンデージを使った止血や患部固定、迅速な救助要請について学びました。

実習の後半には、災害現場での患者搬送中に消防団員が怪我をしたという想定のロールプレイを行いました。

研修を通して、日頃の訓練はもとより、各種災害対応の活動中に発生が予想される怪我や病気に対する応急処置を習得することにより、団員としての任務達成と公務災害防止に寄与できると感じました。

女性消防団員にとって、ファーストエイドのような研修は初めてのことであり、難しいことなのではないかと不安を感じていた部分もありましたが、講師の皆様の丁寧で解りやすいご指導のおかげで、自分たちもいざというときに慌てることのないように応急処置の技能を習得しようという気持ちが芽生えました。

研修会の終わりには、高橋事務局長よりセーフティ・ファーストエイドキットの寄贈を受け、日南市消防本部消防長　釋迦野明生からお礼のあいさつを申し上げて、約２時間の研修を終了しました。

5　研修を終えて　受講女性団員の感想

今回、ファーストエイド研修会を初めて受講するにあたり、期待と不安で一杯でした。研修内容はレベルの高いものであり、緊張感からか研修が終了するまでの時間がとても短く感じました。

消防庁国民保護・防災部防災課地域防災室、消防団員等公務災害補償等共済基金、厚生労働省ＤＭＡＴ事務局、宮崎大学医学部など、たくさんの方々にご指導いただき、今までにないとても有意義な研修会でした。

応急処置の実習では、宮崎大学医学部教授からエマージェンシーバンテージの使用方法や実技の指導をしていただきました。わからないことがあって質問したときも分かりやすく丁寧に答えていただきました。また、担架を使った負傷者搬送やその後の処置についても具体的で細やかな指導をしていただきました。

災害時のメンタルケアの講義においては、最初に、緊急時の人道支援の原則について解説がありました。災害時にはすべてのことにストレス反応が起こると認識させられました。その中で支援していくことは大変難しいことですし、解決できないこともあるのだと思います。この研修会で学んだことを消防活動のなかでも実践していけるように、いつ災害が起こるか分からない今、私達にも何かできることがあるのではないかと強く感じました。今後も、強い意志を持ってこのような研修を重ねていきたいです。

次回の研修会がとても楽しみです。ありがとうございました。

6　今後の取組

今回の研修を終えて、災害現場における応急処置（ファーストエイド）の習得は、本市の女性消防団員においても大変有意義だと感じました。まだ研修に参加していない女性消防団員に対して今回の研修の成果を披露する計画がありますので、そのときまでに、女性団員一人ひとりが他の団員に助言や指導をしたり模範実演したりできるくらいの技量を習得したいと思います。さらに、今回の研修を将来にわたって女性団員の活動に生かしていけるように取り組んでいきたいと思います。

最後に、ご指導をいただきましたDMAT事務局の皆様、実習のお手伝いをいただいた救命救急センターの落合先生、県立延岡病院の長嶺先生、日南市消防本部の救急救命士の皆様、そして研修を主催していただきました消防団員等公務災害等共済基金の皆様に、厚くお礼を申し上げます。ありがとうございました。